

## 第236回 番組審議会

1. 日 時 平成26年10月14日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 11名  
出席委員数 9名(欠席委員数 2名)

### ○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)  
竹中 陽一(副委員長)  
—以下50音順—  
石田 征広  
加藤 裕一  
木戸場 美代子  
斎藤 純  
菅原 正二  
八木橋 伸之  
吉田 浩次

### ○ 会社側出席者(7名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)  
小原 忍(専務取締役)  
前田 秀男(取締役技術局長)  
藤原 銀司(取締役)  
工藤 浩(取締役営業局長)  
工藤 哲人(岩手めんこいテレビ東京支社主任)  
鎌田 淑子(めんこいエンタープライズ制作部)

### ○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 「ジュネーヴの星 ～大友啓史が迫る新渡戸稲造の精神～」  
平成26年8月31日(日) 15:00～15:55放送

#### 5. 議事概要

今回は8月31日(日)放送の「ジュネーヴの星 大友啓史が迫る新渡戸稲造の精神」を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

##### ●岩手めんこいテレビ東京支社工藤主任からの説明

・一昨年「スーツを着たサムライ 武士道伝説」という番組を制作した。この番組では新渡戸稲造の生涯を1時間にまとめたが、新渡戸を1時間にまとめることは不可能で、もっと掘り下げたいという思いがあった。

・2014年は、日本とスイスが国交を結んで150周年にあたる年。2つの国の架け橋になった人物は新渡戸稲造しかいないと思った。スイスを旅するのは、盛岡出身の映画監督・大友啓史さん。大友監督は、「新渡戸稲造の『武士道』の世界観で自分の作品を制作している」と話されていて適役だと思い依頼した。

##### ●めんこいエンタープライズ制作部鎌田ディレクターからの説明

・これまで自分が制作してきた番組の中で一番難しく、ためになった番組だった。新渡戸から教えられたことは「平和」という言葉の深さ。大友監督から教えて頂いたことは、目に見えないことをテレビで伝えることの難しさだった。

・スイスをきれいに撮ることは容易く、スイスに新渡戸が残したことを撮ることは難しかったが、皆で探し続けた。番組を見た人に新渡戸稲造の「武士道」を読んでもらいたいと思ってもらいたいという思いを込めて制作した。

##### ●出席した委員からの意見

- ・岩手出身の新渡戸稲造に岩手出身の大友啓史監督が迫る番組は、岩手でなければ実現できない番組であり、見ていて誇らしい気がした。
- ・テンポが良く、登場人物も豪華で近年こんなに面白い番組はないと思った。全国放送どころか、世界に発信してほしいと思った。
- ・スイスの美しい景色の中で、これまで知らなかった新渡戸稲造の業績や交友関係がふんだんに盛り込まれていて楽しく見る事ができた。続編を期待したい。
- ・映像が美しく、貴重なものが貴重なものであることが伝わってきた。
- ・大友啓史監督の起用が成功したと思う。新渡戸の「武士道」精神を受け継ぐ者としての覚悟が見えた。
- ・映像に対して感覚の鋭い演出で、随所に気配りを持った撮り方をしていると感じた。
- ・登場人物、エピソードが多くなり過ぎた為に、散漫な印象になった。
- ・新渡戸と登場人物、そして大友監督を繋ぐ一本のテーマが何だったのかがよく判らなかった。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成26年10月15日(水) 産経新聞 東北版

※平成26年10月25日(土) 午前4時00分から4時15分まで「めんこいテレビ 批評」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし